



【特別連載】市が目指す地域医療の将来像・第1回（全4回）

最前線に立つ 市立病院・診療所

公立医療施設の役割と必要性

市は、新たな地域医療体制を構築する準備を進めています。「民間の病院に任せておけば……」「市の財政は大丈夫か」など、さまざまな意見や疑問が思い浮かぶ方もいるのではないのでしょうか。

そこで、今回から地域医療の将来像を考える上でポイントとなるテーマを3回にわたって取り上げ、4回目では市医療体制のグランドデザイン（全体構想）案を示します。1回目のテーマは「公立医療施設の役割と必要性」です。

民間では難しい 役割を担う

医療は役割によって大きく一次医療から三次医療に分けられます（下図）。一般的に民間医療機関は一次、県立病院は二次、大学病院などが三次医療を担います。市立病院

・診療所は一次と二次の2つの役割を担いますが、比較的一次に近く、民間医療機関と同様に地域医療の最前線に立っています。

■図 医療の役割

一次医療

民間医療機関
など

健康管理・予防・
病気の初期治療

二次医療

県立病院
など

民間医療機関で扱えない
ような病気に対応。入院・
手術が必要な場合

三次医療

大学病院
など

特殊な医療や先進
的な医療を必要と
する場合

維持には市民の理解が 不可欠

このように、市立病院・診療所は市民に寄り添い、民間医療機関では対応することが難しい医療を提供する必要があります。これらの医療施設を維持するためには一定の財

県や市の公立医療施設は、地域で必要とされる医療のうち、採算性などの面から民間医療機関では担うことが難しい医療を提供する役割もあります。例えば、へき地や過疎地での医療、新型コロナウイルスをはじめとする感染症への対応などが挙げられます。特に新型コロナウイルス感染症の対応では、発熱外来の設置や感染者用の入院病床を用意するなど、現在も中核的な役割を担っており、その重要性はさらに高まっています。

政負担が必要であり、それには市民の皆さんの理解が不可欠です。市は、皆さんと共に地域医療を支えていきます。

■問い合わせ 本庁政策企画課 寄り添う奥州会議プロジェクトチーム（☎24・2111、内線1426）

◎次回以降、地域の医療ニーズや、市の財政状況などについて詳しくお知らせしていきます。

